



伊勢市小俣町元町の南部自動車学校が5月末から中

国語での合宿教習を始めた  
|| 写真。中国人による中

## 中国語での合宿教習始まる

伊勢 南部自動車学校

指導員は中国人の王さん

国語での授業が特徴で、すでに数人が受講して卒業、無事に運転免許試験に合格した。全国指定自動車教習所協会連合会によると「中国人の教習所指導員は全国的に珍しい」といい、日本語が話せないから運転免許

もーと思ったのが、この道に入るきっかけ。未知の世界なのに弾き語る未来の自分を想像しあこがれた」という。祖父に話すと、ギター

友の反応は世辞ではない。「生来の優れた音感に加え、合唱団で鍛えた豊かな声量は定評がある」と浜口さんも太鼓判を

し、毎年末のほのぼのコンサートや鳥羽マリンターミナル、鳥羽大庄屋かどやコンサートなどこれまでに10回以上の弾き語りを披露し

た。時には、通り過ぎる市民の姿も目に飛び込むけれど、ごくありふれた日常生活空間で弾き語りができる点もありがたい時間だと

音楽以外の趣味はテニス。友達とラケットを手に汗を流すのも楽しい時間という。(橋)

もあきらめざるを得なかった中国人に喜ばれている。同校では、若者人口の減少を見据え、数年前から合宿教習をスタートさせ、全国から生徒を募っている。さらに、日本で暮らす中国人が、運転免許がないために、通勤や生活に不便を感じていることを知り、中国人が指導する中国語での教習を始めることにした。

一昨年に中国人の王さん(26)と、台湾に留学後、現地で働いていた中野ミチヨさんがスタッフに加わり、本格的に準備を始めた。2人はまず教習指導員の国家資格取得を目指して猛勉強。特に王さんは「運転には自信があったものの、日本語の専門用語や法律用語

が難しかった」と苦戦しながらも、今年2月に無事に教習指導員としての資格を取得した。今年5月から中国語合宿教習の生徒を募集したところ、県内だけでなく、県外からも集まった。愛知県西尾市の20代の中国人女性は「車で通勤したいが、日本語が分からないので免許取得を諦めていた。中国人が指導してくれると知り、迷わず受講を決めた」と話す。中国人が免許を取る際のハードルの一つが中国と日本の交通ルールや法律の違い。王さんと中野さんは、授業で使う資料を手作りして、中国人に理解しやすいよう工夫している。愛知県知多市の30代の中国人女性

(由)